

ゴールデンウィークが終わり通常の生活が戻ってきました。今年は10連休という長いお休みでしたので、特に新入園児さんをご家族で過ごすのんびりタイムに心地よさを感じて、登園を嫌がってしまうのではないかと心配していましたが、思いの外大きなグズグズはなく園生活のペースをスムーズに取り戻したように感じています。

新入園児さんと言えば、年少さんは年々オムツマンが増えていきます。頑張ったんだけど上手く外れなかったり、抵抗されてしまったり、排泄の間隔があまりにも頻繁で断念せざるをえなかったりして難しかったようです。最近「子どもが嫌がるなら無理やりすることはない」と書かれている育児雑誌もあるので、外れるのに越したことはないとはわかっていますが、いろいろ模索しながらの日々だったのだろうとお察しします。

そんなお母さんの大変さが垣間見えるエピソードがありました。

1日保育が始まって間もなく、おトイレにふくれっ面の男の子がいました。パンツも履かずに何やら怒っている様子。

「どうしたの?パンツ履かないと風邪ひいちゃう!」とか「お手伝いしてあげようか?」とか、先生たちが入れ代わり立ち代わり声を掛けますが、何を言っても「やだ!」しか返って来ません。どうやらお着替え袋の中にオムツが入ってなく、パンツは履きたくない!と粘っていたようです。普段はニコニコして色々な事を素直に楽しんでいKくんですが、「ふ〜む。お家ではこんなにヤダヤダして頑固ちゃんなのか〜」と思いながら、さてどうしようかと作戦を練っていました。

少し落ち着いた頃に先生が、「もうオムツないのね。お兄ちゃんパンツしか入ってないのねえ。」すると、「やだ!」とKくん。何を言っても「やだ!」の一点張りです。そこで、「じゃあ、オムツ買って来る?」と言うとKくんがチラッとこちらを見ました。「今日お家に帰ったらオムツ買っておいで」するとやっと頷きました。

「今日ママにオムツ買ってもらって、明日い〜っぱい持ってくればいいよね。」と言うと「うん」とKくん。そこですかさず、「じゃあ、今日はどうしようか?これ履こうか。バズとアンパンマンのパンツ。どっちにする?」すると、バズのパンツを選んで履きました。「わあかっこいいんだ!お兄ちゃんパンツ、すごく似合ってる!」と言うとニヤッと笑ってまんざらでもない様子でした。後でお母さんに聞くと、パンツを履いたのは初めて。ずっと「やだ!」の一点張りで嫌がっていたそうです。その日の帰り、Kくんは「明日もお兄ちゃんパンツで来る!」と言って帰りました。履き心地が良かったのか?周りのお友だちが履いて褒められているのを見ていてチャンスを狙っていたのか?気持ちを受け止めてもらい安心したり、「オムツは赤ちゃん!」と否定されなかったことも気持ちがホッと和らいだ瞬間だったのでしょう。

幼稚園に通うようになって、「お弁当が始まったらパンツにする!」という約束をすんなりクリアしたり、「明日もパンツで来る!」と言い出したり、オムツをやめてもらさなかったりして、あっさりオムツが取れた年少さん多数。でも、お母さんがお子さんの成長を願って試行錯誤しながら一生懸命向き合うことが大切! いっぱい大変だったからこそ、クリア出来た時の喜びは大きい! そんな喜びをご一緒に味わっていきましょう。1年間よろしく願いいたします。



とんな

「とんな」は、ようちえんで起こる
とんなとき・とんなこと・こ〜んなにを
折々お届けします。

やってほしいの

お昼の時間、みんながお弁当の準備をしていると、じっと座って何もしない子がいます。

「Rちゃん、みんなお支度してるよ!遅れちゃう遅れちゃう!」と先生が声をかけます。すると、「年長さんがやってくれるの」とRちゃん。自分で上手く出来ないのかな?と思いながら、「今日年長さん来ないねえ。お勉強中かな?」と声をかけますが返事が返って来ません。そこで、「Rちゃん、今日先生がお手伝いしようかな。」と言って用意をしようとする手と手を止められました。すると、今までじっとしていたRちゃんが自分でどんどん準備を始めたのです。

年長さんがやってくれるものか?やっているのか?やって欲しかったのか?年長さんの存在の大きさを感じた一幕でした。

年少組



お昼になると、年長さんがお弁当の準備を手伝いに来てくれます。年長さんのやり方も見ながら学びます。

年少さんなら「いいよ！」



年少さんが遊びに来ると嬉しくて大サービスする年中組。

2階のお部屋になり、おもちゃも少し変わりました。新しいおもちゃに心を躍らせている年中組ですが、みんなで使えるだけの数はありません。「か～して！」「だ～めよ！」の音が聞こえて来ることがよくあります。“今使ったばかり”とか、“せっかく手にしたおもちゃを貸したくない”とか、先生に助けを求めにくることもしばしばです。

そんな年中組ですが、「いいよ」と貸してあげられる時があります。それは年少さんが遊びに来た時。「貸して」なんて言われなくても「このおもちゃ使う？」と聞いたり、「いらない！」と言われても傍にそっと置いたりするほどです。お兄ちゃん・お姉ちゃんになりたいくて！何かしてあげたくて！仕方がない様子の年中組なのです。

※マホウれん草・・・1月に種を蒔いて、寒さに負けず大きく育ったほうれん草は、食べると魔法のような力が出るはず！、そこで「マホウれん草」と名付けられたのでした。

こ～んな子みっけ！



※マホウれん草の胡麻和えを作ります。みんなで押さえたり応援したり忠告したり！？

職員紹介

年少さんを抱き上げて、美香先生を見せようとしています。



カウンターに登りついて、美香先生に声を掛けてます。

美香先生、こっち向いてー。

年少さんのために！？



「ゆっくり慌てなくていいからね！」と声をかけながらサポートする年長組。

ある日、年長組の男の子たちから「アスレチックやりたい！」と声が上がりました。園庭の遊び道具は自由に使えますが、年少さんが慣れるまでの間、大型の移動遊具はお預けにしました。先生が「年少さん、危ないかしら？」と言うと、「大丈夫！年少さんも出来るように低くして作る！」と男の子たち。それならとみんなで巧技台を運んで作り始めました。

すべり台やはしごを架ける高さなどを相談しながら作っていきます。すると楽しそうな様子を見て他の年長児も仲間入りしてきました。年少さんへの配慮については知らないはずですが、「高すぎて危ないね。」「そうしたら下にマットを敷こうか。」などのやり取りからどう作るのかが伝わって行くようです。

こんな風にも楽しめるぞ～！



やっと完成して遊んでみると、年少さんが難しいところはやって見せたり、わかりやすくするために順路の線を引いたりして、その都度工夫してあげていました。そのお陰で、年少さんは何度も回って楽しみ、それを見て年長組は嬉しいと同時に、“こうしたらもっと楽しい”とアイディアを出しながらどんどん進化させていました。自分たちで組み立てたからこそ！それぞれが何倍も楽しめるものになったのでしよう。

